

サイモン・フジワラ | ホワイトデー

Immediate Press release 2016.1.5

Simon Fujiwara White Day

謹啓 新春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2016年1月16日 [土] より3月27日 [日] まで、「サイモン・フジワラ ホワイトデー」を開催致します。

ベルリン在住のアーティスト、サイモン・フジワラ。現在33歳の若手ながら、2010年には優れた現代美術のアーティストに贈られるカルティエ・アワードを受賞、2012年にはイギリスのテート・セントアイヴスで大規模個展が行われるなど、国際的に高い評価を得ています。日本人の父とイギリス人の母を持つフジワラにとって、本展は母国での展覧会であり、日本の美術館における待望の初個展です。4歳まで日本で暮らし、母の故郷イギリスをはじめ世界各地で幼少期を過ごしたフジワラは、その国際的なバックグラウンドから「あたりまえ」と思われていることを検証する目を養い、それを鮮やかな手法で作品へと展開させます。

フジワラの作品は、絵画や立体、ビデオ、ときには他人の制作物まで、さまざまな要素を組み合わせると一つの場面をつくります。まるで舞台空間を思わせるようなフジワラのインスタレーションは、実際の社会的なものごとや自分自身と家族の歴史を題材にしており、そのなかにはフィクションが挿入されることもあります。この「真実を知るための嘘」は、私たちが普段なんの疑問もなく受け入れている事実や慣習の背後に、さまざまな理由、経緯、ときには思惑が隠れていることをあらわにします。情報化、多様化が進む現在、異なる価値観との出会いはかつてないほど急速に、そして頻りに訪れます。自分の常識が隣の人と同じとは限らない時代だからこそ、フジワラの視点とユーモアは大切です。

本展はアートギャラリーの展示室全体を工場の生産ラインとして構成し、作品の一部は会期中に生産されていきます。現代を生きる私たちにとって「豊かさとは何か」を考えるきっかけとなる本展は、人間の複雑な美しさやアートの力をあらためて感じさせてくれる機会ともなるでしょう。あなたのその「あたりまえ」の本質を確かめに、そしてその先に見える世界を探しに、ぜひお出かけください。

本展の概要と見どころをご紹介しますので、「サイモン・フジワラ ホワイトデー」を貴媒体上では是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年も東京オペラシティアートギャラリーに変わらぬご愛顧を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

【開催概要】

展覧会名： サイモン・フジワラ ホワイトデー Simon Fujiwara White Day
 会期： 2016年1月16日 [土] — 3月27日 [日]
 会場： 東京オペラシティ アートギャラリー
 開館時間： 11:00 — 19:00 (金・土は20:00まで/最終入場は閉館の30分前まで)
 休館日： 月曜日 (3月14日 [月]、21 [月・休] は開館/3月22日 [火] は振替休館)、2月14日 [日] (全館休館日)
 入場料： 一般1,200 (1,000) 円/大・高生800 (600) 円/中学生以下無料

- * ホワイトデーのカップル割 3月12日 [土]、13日 [日]、14日 [月] の3日間にカップルでご来場の方はおひとり分入場無料。
- * 同時開催「収蔵品展 054 寺田コレクションの陶」「project N 63 金子拓」の入場料を含みます。
- * 収蔵品展入場券200円 (project N を含む / 割引無し) もあり。
- * () 内は15名以上の団体料金。
- * 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。
- * 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ： 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

ウェブサイト： <http://www.operacity.jp/ag/exh184/>  <https://www.facebook.com/tocag>

主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
 協賛： 日本生命保険相互会社
 助成： 芸術文化振興基金、ifa
 協力： TARO NASU

サイモン・フジワラの展覧会へようこそ。
あなた自身に起こる変化をお見逃しなく！

ホワイトデー 恋と感謝と儀礼のシステム

ヴァレンタインデーにチョコレートもらった男性が、お返しプレゼントを贈るホワイトデー。そもそも日本のヴァレンタインデーは、製菓会社が販売促進のために欧米の慣習を輸入・変形してつくった商業的な仕掛けによって定着した歳事といわれています。そのお返しをさらに儀礼化したホワイトデーとあわせて、個人の感情と消費を結んだ見事なシステムといえるでしょう。サイモン・フジワラは、私たちが日ごろ無意識に受け止めている「システム」に光を当て、その背後にさまざまな理由、経緯、ときには思惑が存在することを明らかにします。さて、社会に張り巡らされたシステムは、私たちの幸せとどのようにかわりがあるのでしょうか？

美術館の中に現れた工場の生産ライン 現代の「幸せ」への問いかけ

ロンドンで起こった暴動に参加したことで、液晶モニター製造工場に送られた少女をかたどった約100体の彫像が会場を埋める《レベッカ》。ほとんどの人が新鮮な牛乳を見たことも飲んだこともない国の絵画工房に依頼して作られた《乳糖不耐症》。フジワラ自身の生い立ちや家族の歴史にフィクションが交えられた演劇的なインスタレーション《ミラー・ステージ》や《再会のための予行演習》。そして本展の会場では、かつて高級品として売買された毛皮のコートの毛を刈り、皮を継ぎ合わせてつくる《驚くべき獣たち》の生産ラインが現れます。

綿密に組み立てられた物語にもとづくフジワラの作品は饒舌で、私たちの興味や好奇心を刺激してやみません。しかし、驚くことにそれらの作品には決まった「結論」が見当たらないのです。観る人ごとに異なる印象を与えるフジワラの作品は、鑑賞者それぞれが自身と向き合いながら、ものごとの本質を確かめていくための「鏡」なのかもしれません。そしてその作品は私たちに問いかけます。今まで信じてきたこととは絶対的なものなのでしょうか？

「正しい」「正しくない」に回収され得ない複雑さの美

フジワラの作品が私たちに与えてくれるセンセーションは、「あたりまえ」の前提が解体する瞬間に生まれます。消費主義、情報化の進んだ現代の社会では、合理性という「正しさ」もひとつの正義ですが、システムが合理的に働いているように思われる時ほど、それがどのようにできたものなのか、そこに置き忘れたものがないかを問いかけることは重要です。

フジワラは、当館が2014年秋に「ザハ・ハディド」展を開催したことに呼応して、白紙見直しとなった新国立競技場を、ユーモアと愛情を込めた彼らしい方法によって作品化します。そこに映し出されるのは、正しい、正しくないの二者択一では回収され得ない、社会の複雑さ、人間の感情、それをありのままに表すことができるアートの力といえるでしょう。

【関連情報】

●書籍情報

サイモン・フジワラの国内初の作品集が、本展の開催にあわせて HeHe より発行されます。最初期の作品から最新作まで約30点が、作家自身による紙面構成と本人の書き下ろしを含むテキストで所収されます。

HeHe (ヒヒ) <http://www.hehepress.com>

●対照的な展覧会、どちらも見ないともったいない！「展覧会相互割引」

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] で開催中の「ジョン・ウッド&ポール・ハリソン 説明しにくいこともある」(開催中～2/21)の入場券をアートギャラリー受付でご提示頂くと、本展入場料が団体料金になります。また ICC 企画展へご入場の際に本展入場券をご提示いただいた場合も団体料金になります。他の割引と併用不可、ご本人様1回限り有効。

ICC <http://www.ntticc.or.jp/> TEL:0120-144199

■「サイモン・フジワラ ホワイトデー」リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー

【展覧会担当】野村 【広報担当】吉田

Tel:03-5353-0756 / Fax:03-5353-0776 / Email: ag-press@toccf.com



《レベッカ》2012
Ishikawa Collection, Okayama
photo: Koji Ishii
courtesy of the artist and TARO NASU



《乳糖不耐症》2014
courtesy of Dvir Gallery
courtesy of the artist and TARO NASU



《ミラー・ステージ》2009-2013
Ishikawa Collection, Okayama
カーポート・プロジェクトでの展示風景、2013
courtesy of the artist and TARO NASU



《驚くべき獣たち》2015
courtesy of Marian Goodman Gallery, Paris,
courtesy of Projectos Monclova
courtesy of the artist and TARO NASU



《ハロー》2015
courtesy of the artist and TARO NASU